

在宅業務のスキルアップに向けた短期集中型研修制度の策定

○安田光¹ 巽清² 吉田寿々代³ 辻谷 昌訓⁴

(1: サン薬局 郡山店, 2: サン薬局 天理中央店, 3: (株)関西メディコ, 4: サン薬局 学園前店)

目的

薬局薬剤師の在宅医療に関わるケースが増加しており、現場では各薬剤師が様々な創意工夫を行い、在宅患者と向き合っているが、まだ質の高い在宅業務を行える薬剤師が少ないのが現状である。今後、在宅医療をより高レベルで推進する為、外部研修施設も利用した研修制度を構築し、薬剤師間のスキルアップ及び情報共有を目的とする。

調査方法

2016年度入社12名及び在宅医療を実際に行っている薬剤師36名の48名を対象とし、「在宅指導薬剤師育成基本研修」を構築し、25時間の研修プログラムを短期集中で行い、研修内容についてアンケートを実施した。

結果

1. 在宅医療に必要な知識について



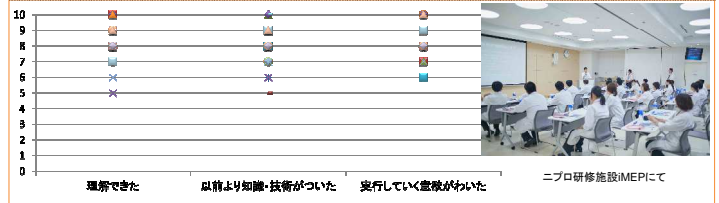
<研修内容>

講義にて保険・制度等、在宅の基本的知識を習得する事を目的とする。

<回答者からの声>

- ・在宅医療をした事のない人でも分かりやすい内容だった。
- ・知識の再確認ができ、今後の業務に活かせると感じた。
- ・すでに在宅業務を行っている者からすれば物足りない。
- ・保険について整理できた。

2. 在宅にかかわる薬剤師の実情について



<研修内容>

在宅経験が豊富な薬剤師より現場での実情や対応を学ぶ事を目的とする。

<回答者からの声>

- ・緩和ケアや小児患者等、色々な形の在宅の現場の実情を知ることができた。
- ・在宅医療ではほかの医療関係者と関わり、より良い連携をするために薬剤師もコミュニケーション能力を高める必要がある。
- ・在宅を行う患者の状況によって個々に対応を考える必要があると感じた。

3. 経管栄養・輸液の基礎について



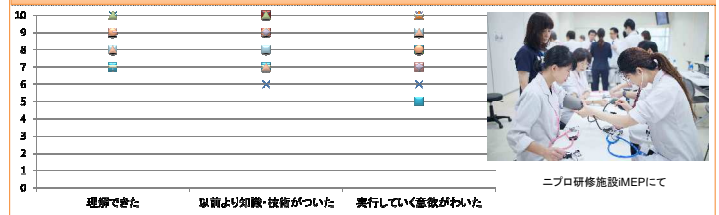
<研修内容>

外部施設での講義・研修にて、経管栄養・輸液の知識を学ぶ事を目的とする。

<回答者からの声>

- ・簡易懸濁については、他職種スタッフからの質問に答えられるようにしなければならないと感じた。
- ・調剤薬局ではあまり関わらない分野だったので、実際に触れて理解することができた。

4. フィジカルアセスメント研修について



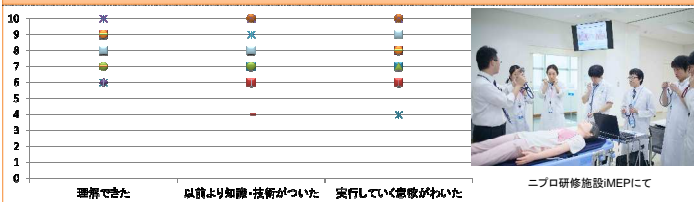
<研修内容>

外部施設での講義・研修にてフィジカルアセスメントに必要なバイタルサイン等の知識・手技を学ぶ事を目的とする。

<回答者からの声>

- ・患者に触ることに抵抗があったが、受講して自信がわいた。
- ・患者の異変に、より早く気付くために必要な講習であると感じた。
- ・実技を通して薬剤師の在宅の未来を感じた。自分で聴診器を購入した。

5. 老人ホームの現場について



<研修内容>

老人ホームにて、現場の実情と入所者との対応について体験することを目的とする。

<回答者からの声>

- ・実際の現場を見ることができ、フィジカルアセスメント研修で学んだことを再確認できた。
- ・薬局での投薬より、より近くで患者様と会話している感覚があった。
- ・今後施設へ行くときに介護士や看護師からの要望をくみ取るのに役立つ。

6. 講義全体を通しての総合評価とこれからやってみたいことについて



<回答者からの声>

- ・非常にいい経験ができ、今後、活かしていきたい。
- ・ニプロの研修では、1つ1つ体験できる時間がもう少し欲しかった。
- ・在宅の知識や技術を得るには、実際に体験することで身に付けられないと改めて感じ、今回の経験は非常に役に立った。
- ・基礎は学べたので、今後は実際の症例や情報共有のためにも継続的な研修があれば参加したい。

考察

新人薬剤師は、在宅の現場を知る貴重な経験となり、現場の薬剤師には、他店舗や他業種等の在宅医療を知る良い機会となった。フィジカルアセスメント研修を受ける事で、質の高い在宅医療を行える知識、技術を習得する機会となった。アンケートでは、他に「胃薬ルートの仕組みや医療器具の種類などを把握する事が出来た」や「バイタルサインを読み取る必要性を強く感じた」等の感想が出た。

今回、在宅指導薬剤師育成基本研修を策定したが、受講者にとって、短期集中で行うことで知識、技術共に非常に習得したものは多い事が示唆された。研修の実施でより積極的に在宅業務を行っていく為の土台が作られたと考えられる。今後はバイタルサインの読み取りなど、より高い質の在宅業務を会社全体で行える様、基本研修は継続で行う必要があり、中・高レベルの研修プログラムも段階的に構築していく必要性はあると考えられる。